

JISA 経営セミナー(第7回)

「攻めの IT 経営を目指した JFE グループ IT 戦略」開催

平成 30 年 1 月 19 日、全国情報サービス産業企業年金基金会館(JJK 会館)において、JISA 経営セミナー(第 7 回)「攻めの IT 経営を目指した JFE グループ IT 戦略」が開催された。出席者は 86 名。講師は北山直人氏(JFE スチール株式会社 システム主監)。



JFE ホールディングスは、2015 年度から 3 年連続で「攻めの IT 経営銘柄」に選定されている。北山氏は、JFE グループについて紹介した後、「攻め」の IT 経営を目指した JFE スチールの取組を中心に講演した。

「多様かつ高機能」「低コスト」「多量生産」といった条件を高いレベルで満たす「鉄」の用途は実に様々であり、多様な顧客ニーズを満たすため、日本の高炉メーカーはほぼ全量オーダーメイドで生産活動をしている。このような鉄鋼ビジネスの基盤となる情報システムの特徴としては、オーダー単位に集積する膨大なデータの処理・活用機能(データベース設計)が重要であること、多量な受注生産であり個別対応が増すため膨大な業務ルール管理機能やプロセス間連携機能が必要なこと、製造品が大きく変わらないためシステムのライフサイクルが長いこと、納期・品質・コストの一貫生産管理技術が必須であることなどが挙げられる。また、2000 年以降は、特に、中国の台頭と過剰生産能力問題、マーケットのグローバル化に伴う複雑な需要変動、資源の大幅な価格変動といった環境変化への対応が課題である。

講演では、このような環境変化への対応の取組として「攻めの IT 経営」委員会に報告されたプロジェクトのうち、「受注基幹システム(J-Smile®)」「新販売生産計画システム(J-Flessa®)」「製鉄所基幹システム刷新」「デジタル技術を活用した鉄鋼製造設備保全の革新」等の特長が披露された。



また、JFE グループの「守り」の強化として、JFE-SIRT(JFE ホールディングスが主体となり、セキュリティに特化したグループ共通の活動機関)の体制や活動内容等も紹介された。

(茂木)